

5 平成23年度特別講義一覧

はじめに

特別講義は、学生のみなさんが幅広い教養・素養を身につけ、卒業後各方面で最大限に能力を発揮できるようになることを目的として開講します。本学の専門分野の教育は充実しており、その内容・成果に十分な自信を持っていますが、それに加えて、教養面での教育を重視する意味で、様々な内容による特別講義を開講します。

平成23年度の特別講義は、専門教育を補完し、社会に出て役立つ、さらに就職試験にも役立つ多分野の教養的講座として厚木キャンパス1コース、世田谷キャンパスでは7コースを開講します。

なお、特別講義(一)～(四)(※短期大学部は〔一〕・〔二〕)は開講時間が重ならなければ複数履修することができます、上級学年になってからでも履修することができます。

<厚木キャンパス>

特別講義 植物と生きものとわたしたち～そのつながりを考える

<世田谷キャンパス>

特別講義

- A コース 日本の食と農の最前線 ―農林水産省寄附講座―
- B コース 海外現場事情 ―国際活動実践論―
- C コース 実践文章表現 ―ジャーナリスト入門―
- D コース 環境実践活動 ―みんなで環境学生をめざそう―
- E コース 源流大学 ―源流域で源流学を学ぶ― 体験基礎コース
- F コース 源流大学 ―源流域で源流学を学ぶ― 体験応用コース
- G コース 公開講座を聴く ―現代を生きる幅広い教養を―

<厚木キャンパス>

特別講義 植物と生きものとわたしたち～そのつながりを考える

<コーディネーター 農学部長・農学科 教授 岡島秀治>

これからの農学は、専門性を越えて、他の領域を取り込んで新たな体系化を図ることや、遺伝子から地球環境にいたるまで幅広い視点から課題を解決することが要求されている。この講義は、農業生産や人との関わりへの貢献等、農学領域で注目される動植物や微生物の力に焦点をあて、動植物の能力、その活用やつながりなどについて幅広く展開する。

<世田谷キャンパス>

Aコース. 日本の食と農の最前線 ―農林水産省寄附講座―

<コーディネーター 食料環境経済学科 教授 大久保武>

この講義は、食料・農業・農村全般に関する国の基本政策について、農水省関東農政局の最前線で活躍中の幹部の方々が語る実践的講義である。将来、国家公務員、地方公務員として政策の企画立案や試験研究・技術普及などに携わることを目指す学生や、中学・高校などの教員を目指す学生にとっては、絶好の公務員対策講座になり得るし、農業者や農業、食品産業、栄養・福祉分野の技術者を目指す学生にとっても、単に政策の基本的な内容だけでなく、その背景、推進の実務的方策、問題点、評価方法などを、関東農政局管内の事例なども含め、わかりやすく、かつ踏み込んで知ることができる。

Bコース. 海外現場事情 ―国際活動実践論―

＜コーディネーター 国際農業開発学科 准教授 入江憲治＞

本学は国際社会で活躍する多数の卒業生を輩出している。これらの活動に関連する学科の科目は、既に国際農業開発学科を中心に幾つかの学科のカリキュラムに配当されている。

本講義ではさらに、海外活動の現場で惹起する問題への実践的な対応力の向上に必要な実体験からのノウハウやアダプタビリティについて最新の情報を提供するものである。具体的には、国際機関、ODA、NGO、NPO、民間企業において活躍する経験者、有職者、本学卒業生による実践活動、そこでの苦労・苦心・喜怒哀楽などの体験談や、これらの活動に対する実技術・知識・ノウハウを教授し、併せて海外体験の奨励を図る。

なお、本講義では海外活動への参画を大望する学生へ、そのチャンスと試験などアプローチの方法についても紹介する。

Cコース. 実践文章表現 ―ジャーナリスト入門―

＜コーディネーター 応用生物科学部 教授 北村行孝＞

論理的で、わかりやすく、誤解を招かない文章を書く。それを第1の目標として、文章表現の素養・技法を身につけ、各種の文章を作成する。第2に、時事問題への関心、理解を深める。そのために、折々の新聞記事を教材として使う。第3に、ジャーナリズムの基本を学ぶ。多メディア時代の情報を読み解き、自ら発信する能力(メディア・リテラシー)を高める。長年、新聞記者として報道・論評の現場に身を置いた経験を生かし、実践的な指導を行う。

Dコース. 環境実践活動 ―みんなで環境学生をめざそう―

＜コーディネーター 学生部長・地域環境科学部 教授 矢口行雄＞

本学の方針でもある「エコキャンパスの推進」「環境学生を創る」を具体化するために、本学の建学理念「実学主義」を基に、環境教育を具体化し行動できる「環境学生」の育成を目的として開講します。この講義では年間の授業を通して、体験型環境教育を主としたカリキュラムを作成し、学生自らが実践して行く事で必要性や効果を実感し、獲得した知識をアウトプットできるようになる事を目指します。また本講座の特徴でもある、授業構成や運営にも学生が主体的に関わるということを通して、他大学にはない「実学主義」農大を経験できる講義を実現します。

平成23年度後学期には、エコキャンパス創造の企画作業を行い、学内だけではなく他校・企業・NGO などに向けその結果を発信し、本講義の終了後も受講生が持続的に環境活動を実践していける講義を計画しています。

Eコース. 源流大学 ―多摩川源流域で源流学を学ぶ―体験基礎コース

＜コーディネーター 森林総合科学科 教授 宮林茂幸＞

このコースは、本学が多摩川源流域の山梨県小菅村で行っている「多摩川源流大学」プロジェクトに参加し、講義と体験実習をとおして源流域の自然や文化を学びます。学内において源流域の自然や文化を学ぶ講義を受講しながら、学んだことを実際に現地で体験実習をとおして確認し自らのものにする事を目的としています。また、体験実習では小菅村の住民の方々を講師に迎え、森林の間伐や保育作業、畑作業、郷土食料理など現地の知恵を中心に学んでいきます。なお、本年からは小菅村だけでなく群馬県尾瀬、栃木県鬼怒川等でも実習を行い、流域や山村に関わる幅広い知識の獲得と体験を行います。

これらをとおして農山村の現状を学び地域問題の理解と解決能力の向上を養います。

Fコース. 源流大学 ―多摩川源流域で源流学を学ぶ―体験応用コース

＜コーディネーター 森林総合科学科 教授 宮林茂幸＞

このコースは、多摩川源流域の山梨県小菅村にある「源流大学」で、昨年基礎コースを修了した学生を対象に、実習を行います。このカリキュラムは座学の他に、源流域の森林管理や整備に関する基本的な森林調査を行い、また、源流域の農業体験では、地形的にも、規模的にも厳しい条件にあり、そうした中で、手の労働による農業技術を学び、さらに源流域の農家の技と知恵に学ぶ農業体験に関する基本実習を行います。実習では、特産物であるコンニャク、ソバなどの生産実習や除間伐を利用した木工体験なども行い、源流文化に触れます。

Gコース. 公開講座を聴く ―現代を生きる幅広い教養を―

＜コーディネーター 学生サービスセンター長・国際農業開発学科 教授 夏秋啓子＞

広く一般市民に公開している公開講座を、本学学生にも特別講義のGコースとして開講するものである。公開講座は、本学の教員の講義や最先端の研究分野などを広く学外に公開することを目的とするほか、社会、経済、政治、文化、歴史、芸術、スポーツなどの各分野で活躍される国内外の著名な方々を講師として招聘し、幅広い教養の修得と、併せて社会性、美的センス、バランス感覚を養う講座である。

特別講義(世田谷キャンパス開講)の履修登録について

履修する場合は、次のA～Gコースの中から受講するコースを選び履修登録すること。

コース	学期	曜日/時限	科目名	教員	教室	備考
Aコース	前学期	月 5～6	日本の食と農の最前線 ―農林水産省寄附講座―	大久保武	307教室	
Bコース	通年	木 5～6	海外現場事情 ―国際活動実践論―	入江憲治	210教室	
Cコース	前学期	木 5	実践文章表現 ―ジャーナリスト入門―	北村行孝	309教室	
Dコース	通年	月 5～6	環境実践活動 ―みんなで環境学生をめざそう―	矢口行雄	308教室	
Eコース	前学期	水 5	源流大学 ―源流域で源流学を学ぶ― 体験基礎コース	宮林茂幸	メディアホール	
Fコース	集中	土・日	源流大学 ―源流域で源流学を学ぶ― 体験応用コース	宮林茂幸	山梨県 小菅村	
Gコース	前学期	水 5～6	公開講座を聴く ―現代を生きるための幅広い教養を―	夏秋啓子	百周年記念講堂	

【学部生と短大生が履修する場合の注意事項】

- 学部生は、特別講義(一)～(四)を在学中、全学年時に履修することができる。所属学部履修番号を選んで登録すること。
- 短大生は、特別講義(一)～(二)を在学中、全学年時履修することができる。所属学科履修番号を選んで登録すること。

	Aコース 月曜日	Bコース 木曜日	Cコース 火曜日	Dコース 月曜日	Eコース 水曜日	Fコース 集中	Gコース 水曜日
	3820	3826	3832	3838	3844	3850	3856
学部生	特別講義(一)						
	特別講義(二)	3821	3827	3833	3839	3845	3851
	特別講義(三)	3822	3828	3834	3840	3846	3852
	特別講義(四)	3823	3829	3835	3841	3847	3853
短大生	特別講義(一)	3824	3830	3836	3842	3848	3860
	特別講義(二)	3825	3831	3837	3843	3849	3861